









地域社会との共存共栄

考え方

IHIグループは、社会の期待に応えることを企業の社会的責任と考え、社会貢献活動に取り組んでいます。

SDGsの目標のうち、「グループ経営方針2019」で示している各事業領域の目標を踏まえ、IHIグループの事業拠点や建設現場などの地域において取り組むべき社会貢献活動の重点課題を設定しています。社会貢献活動を通して、従業員一人ひとりが社会の一員であるという自覚を促し、社会からの期待に積極的に応えます。

社会貢献活動の重点課題

重点課題	事業との関連性	関連するSDGs
地域社会との共生	地域社会と良好な関係を構築し維持することは、IHIグループが円滑に事業展開するために不可欠です。	 
次世代人材の育成	ものづくりを担う人材の育成を推進すること、また、将来の科学技術分野の研究を支援することは、将来の産業の基盤を豊かにし、IHIグループの認知度の向上と事業継続に不可欠です。	  
環境の保全	生態系の維持や異常な気候変動の対策に寄与する活動を支援して、自然の恵みを育て健全な世の中を維持していくことは、IHIグループの事業継続に不可欠であり、従業員の環境問題への理解促進につながります。	  

目標・実績

IHIグループの社会貢献活動の目標支出額は、経常利益の1%を目安にしています。

IHIグループの2019年度社会貢献活動の支出総額は、519百万円（経常利益の1.61%）でした。

社会貢献活動費

(単位：百万円、対象：IHIおよび連結子会社)

項目		2018年度	2019年度
活動内容別内訳	地域社会との共生	502	382
	次世代人材の育成	56	104
	環境の保全	16	16
	その他	61	17
費目別内訳	現金寄付	113	115
	時間寄付	162	187
	現物寄付および敷地提供費	360	217
参考	地域社会関連の団体会費	10	13
	運営経費	121	109

活動実績

(対象：IHIおよび連結子会社)

重点課題	指標		2018年度	2019年度
地域社会との共生	事業の利益※	主催イベントの来場者数	9,129名	7,977名
	社会/環境の利益※	地域社会への支出額	502百万円	382百万円
次世代人材の育成	事業の利益※	理科(ものづくり)教室の参加者数	2,664名	1,628名
	社会/環境の利益※			
環境の保全	社会/環境の利益※	環境保全面積	11,605㎡	3,860,000㎡

※上記指標の「事業の利益」および「社会/環境の利益」とは、RobecoSAMが定義している指標であり、それぞれ以下のとおりです。

事業の利益：製品の開発、ブランド向上、人材開発など事業上の利益に直接かかわるもの

社会/環境の利益：持続可能な開発目標(SDGs)など、社会上・環境上の利益と連携するもの

地域社会との共存共栄

取組み

●地域社会との共生

●車いすバスケットボールイベント

IHIグループは、2015年度から日本車いすバスケットボール連盟への支援を行ない、全国各地で車いすバスケットボールの紹介や選手との交流イベントを開催しています。2019年度は9回目の開催を数え、長野県上伊那郡辰野町民体育館に長野県内で活躍している選手をお招きし、エキシビジョンマッチや来場者による体験会などを実施しました。当日は、辰野地区の事業所に勤務しているIHIグループ従業員のほか近隣住民ら約250名が来場され、大いに盛り上がりました。

●富岡ロケット祭り

IHIエアロスペースの富岡事業所では、1998年から「富岡ロケット祭り」を開催し、従業員に加え近隣地域の皆さまにも参加いただいています。2019年度は22回目を数え、約3,000名の方に来場いただきました。ペットボトルロケット・モデルロケットの製作・打ち上げの実施や、宇宙関連の製品・技術を紹介する展示スペースの開放で、ロケットをより身近に感じてもらう機会を提供しています。また、群馬交響楽団によるオーケストラ演奏、ご当地キャラが登場するステージイベントや模擬店の出店なども行ない、来場いただいた近隣地域の皆さまにも楽しんでいただき、交流を深めることができました。

●東北つながる絆祭

2019年度は、東北地方への関心を高め、復興支援につなげることを目的とした「東北つながる絆祭」を、豊洲IHIビルのアトリウムで開催しました。従業員・家族のほか、近隣地域の皆さまなど、2日間で約3,000名に来場いただきました。

東北各県の産業振興・観光事業などの取組みを紹介するとともに、特産品の販売や伝統文化などが体験できる各県のブースを設けたほか、東北の食材を利用したビュッフェバイキングを実施しました。

また、IHIグループと東北地方とのつながりを紹介する出展なども行ない、東北各県の取組みに楽しんで触れていただくことで、来場された皆さまから好評をいただきました。

●災害支援ボランティア活動

2019年10月の台風19号により甚大な被害のあった長野県長野市において、近隣のIHIエアロマニュファクチャリングの従業員のべ60名が約4カ月にわたって毎週末、災害ボランティア活動を行ないました。

被災当時、床上浸水している家屋が多くあり、電気・水道も停止している中で、地域の方々と協力し、リンゴ農家の復旧作業に励みました。今後もIHIグループでは、地域と共に災害支援活動に取り組んでいきます。

●IHIアトリウムコンサート

豊洲IHIビルでは、アトリウムを利用して、さまざまなジャンルの音楽コンサートを開催しています。ご年配の方からお子さま連れまで幅広く、お楽しみいただいています。2019年度は、春と秋に2回開催し、秋には10回目の開催を数え、各回約500名の近隣住民の皆さまにお越しいただきました。

地域社会との共存共栄

●次世代人材の育成

●小中学生向け出前授業

IHIグループは、次世代の理科系人材の育成を目的として、小中学生向けに出前授業を行なっています。この授業は、お茶の水女子大学と共同開発したもので、理科の面白さや学校での勉強がどのように社会の役に立つのかを伝える内容となっています。

2019年度は、本社近隣の小中学校5校において、教育カリキュラムの一環として「ジェットエンジン」を題材とした授業を行ないました。いずれの授業も、「ジェットエンジン」の仕組みや原理を映像で学習したのちに実験をすることにより、授業後のアンケートでは、理科への関心が高まったとの声をいただきました。

●豊洲みらいプロジェクト

このプロジェクトは、豊洲の子どもたちの明るい未来を築くために、豊洲市民、企業、大学などが協働するネットワークとして、2019年度に発足しました。

2019年度は、豊洲に立地するSCSK株式会社・芝浦工業大学・IHIが連携して計4回のプログラムを開催し、約100名の子どもが参加しました。毎回実験や製作を行なうプログラムとしたことで、参加した子どもたちに科学技術への関心を高めてもらうことができました。2020年度以降も継続して取り組み、プログラムを発展させていきます。

●環境の保全

●相生事業所の取組み

IHI相生事業所は、相生湾と山林に囲まれた豊かな自然環境の中に立地しています。事業所面積の約7割を占める緑地では、これまで動植物調査やグリーンインフラ整備などを通して、生物多様性のポテンシャルを確認してきました。

2019年度は、それらの維持や一層の増進を図るために、事業所内の山林に対して詳細な地形や植生分布などの調査を実施し、その結果をすべて電子化して地図情報として一元管理できるようにしました。

今後は、このデータを活かした具体的な保全計画を策定し、多様な森林資源の維持・整備に努めていきます。